

船舶事故調査報告書

平成31年4月17日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成30年9月24日 10時30分ごろ
発生場所	愛媛県今治市鵜島西方沖 伯方大島大橋橋梁灯（C1灯）から真方位139°250m付近 （概位 北緯34°11.4′ 東経133°04.5′）
事故の概要	プレジャーボートとんぼ丸は、北西進中、また、漁船能島は、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成30年10月11日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート とんぼ丸、5トン未満（長さ8.51m） 273-8176広島、個人所有 B 漁船 能島、1.94トン EH3-46470（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A なし B 左舷後部防舷物に破損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期（鼻繰瀬戸）
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、知人3人を乗せ、微速力前進として北西進中、船長Aが、漁船数隻が操業していた海域を通過して前路に航行の支障となる他船がいなくなったと思い、半速力前進としたところ、至近にB船を認め、B船を避けようと左舵を取った直後、B船と衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、法定の形象物を表示して漂流し、一本釣り漁の操業中、船長Bが、船尾方に視認していたA船が約50mまで接近し、船長Aが自船に気付いていない様子であったので、衝突の危険を感じ、立って手を振りながら大声で叫んだものの、A船と衝突した。
分析	A 船は、北西進中、船長Aが、前路に航行の支障となる他船がいなくなったと思い、船首方の見張りを適切に行わずに航行を続けたことから、前路で漂流中のB船に気付かず、B船と衝突したものと考えられる。 B 船は、漂流中、船長Bが、船尾方に視認していたA船が約50m

	に接近するまで漂泊を続けたことから、A船との衝突を避けるための措置をとる時機を失し、A船と衝突したものと考えられる。
原因	<p>本事故は、A船が北西進中、B船が漂泊中、船長Aが、前路に航行の支障となる他船がいなくなったと思い、船首方の見張りを適切に行わずに航行を続け、また、船長Bが、船尾方に視認していたA船が約50mに接近するまで漂泊を続けたため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航行中は、航行の支障となる他船がいらないと思い込むことなく、常時適切な見張りを行うこと。 ・漂泊中は、接近する他船に対し、適切な時機に有効な音響による信号を使用して注意喚起を行うとともに、必要に応じて衝突を避けるための措置をとること。